

認知症の方への接し方のポイント

看護師 佐々木寿美子

症状にあわせて対応し、環境を整えることで症状の緩和や予防をすることができます。個人ごとに症状や反応は違います。ご本人に合った接し方を見つけることが大切です。

怒りっぽくなる

興奮や暴言、暴力、介助の拒否などがみられることがあります。否定や注意をされたり嫌なことをされると、不安・不快感を持ちます。その感情を抑えられず態度に出たり、考えを言葉にして伝えられないかわりの表現方法でもあります。



わたしは間違っていない。
何を言っているかわからない。
うまく伝えられない。

間違えたり、同じ事を繰り返しても否定しない。
危険な行為は、強い口調にならないようにして注意する。
嫌なことは無理をさせず、時間をおいてからすすめてみる。
ゆっくりあせらせない。落ち着いた態度で、安心感を与える。

何度も同じことを聞く、話す

したこと・話したことを忘れてしまったり、思い出せず同じことをくり返してしまいます。また、忘れたという自覚がないことがあります。わからないことに不安を感じ同じことを繰り返していることもあります。



「何回も聞いたよ」「また同じことしてる」など否定的なことは言わない。
「そうなんだね」「何か心配なの？」と受け止める。一緒に考える。

着替えや入浴を嫌がる

入浴・着替えをしたことを忘れたり、恥ずかしさや不安感から拒否をすることがあります。今までできていたことが順序だててできなくなり、おっくうになることもあります。無理にすすめると、怒ったり激しい抵抗につながります。



無理に着替えさせようとしない。
拒否する理由がなにか確認する。(無理に問い詰めない)
一部分だけの着替えや、体を拭くなど方法を変えてみる。
同性の人や、信頼している人にすすめてもらう。

妄想・幻覚

置いた場所を忘れても、忘れたことを認めずに盗られたと考える「もの盗られ妄想」、不安感から、誰も助けてくれない・悪く思われている、と考える「被害妄想」などがあります。

「幻覚」は、他の人にはわからないものが見える・聞こえることです。脳や自律神経の障害からおこるものや、不安や恐怖感から見えるものがあります。



大事なものを誰かに盗られた。
自分には見えているのに、なぜ違うと言われるんだ。
自分は悪く思われている。

一緒に探し、探し物のある場所に誘導して自分で
見つけさせる。他の人が見つけないようにする。
本人が信頼している人などに話を聞いてもらう。
幻覚を否定せず、見間違いを防ぐよう環境を整える。

周囲を汚してしまう

トイレの場所がわからず間に合わない、トイレットペーパーを拭き取る物だと認識できない、きれいに拭き取れない、ズボンの脱ぎ着ができない、といった理由で失敗してしまうことがあります。なんとか自分できれいにしようとした結果、周囲まで汚してしまいます。汚してしまった恥ずかしさで、汚れ物をタンスなどに隠してしまうこともあります。



汚してしまった。なんとかしなくちゃ！

「トイレ」「ちり紙」など、はり紙をしてわかりやすくする。
紙パンツや、脱ぎ着のしやすい服にする。
一緒にいるときは時間を決めトイレに誘導する。
汚しても強く怒らない。自尊心を傷つけないようにする。

普段できていたことができない

食事をする、歯を磨く、料理を作るなど今までできていたことができなくなることがあります。食べ物だと認識できない、歯ブラシの使い方を忘れている、料理の手順を計画立ててすることができなくなるなど、理由はさまざまです。

なぜできないのか、話を聞いたり様子を見る。落ち着いた口調で説明する。
できるところは自分でさせ、全部介助しない。(できることが減らないように)